

新物流システム 「オールハイソー」 で2024年問題 に挑む



「物流の最適化を通じて、2024年問題の解消と中小運送会社の収入アップ、CO₂削減に寄与していく」と話すのは、物流システム開発・販売セゲル（福岡市）の朴用哲社長。自社開発した貨物と空車情報をマッチングするシステム「オールハイソー」で2024年問題に切り込んでいく構えだ。

同社は物流のルート分析や、トラック1台当たりの動態分析システムの販売が主力。大手の物流会社への納入実績もあるが、かなり高額だった。そこで、全体の97%を占める中小運輸会社が利用できるようにとオールハイソーを開発した。「同システムを利用すれば、現在4割程度と言われる積載率を空車・混載の利用で高めることができる。これと効率的な配送ルートを組み合わせることで自社と荷主双方のコストダウンが可能」という。

朴社長は「積載率が増えれば運送効率が高まりトラックは減らせる。運転手不足も緩和されるはずだ」と話している。